

泊原発2号機における一次冷却水漏れ事故問題で 北海道電力(株)に申し入れ

後志管内泊村の北海道電力の原子力発電所2号機の原子炉格納器内の再生熱交換器室において放射能を含んだ1次冷却水が漏れる事故が発生した問題で、連合北海道は、道民が今回の事故発生により、原子力発電の安全性に対する不安や重大事故に繋がるのではないかと懸念がひろがっていることを重視し、事故の原因究明と再発防止、安全確保対策、情報伝達の改善について、9日14時30分に北電に申し入れた。また、15時30分から、道の山口副知事に行政の立場から北電に要請するよう要請した。

2003年9月9日

北海道電力(株)

社長 南山 英雄 様

日本労働組合総連合会北海道連合会
会長 笠井 正行

泊原発2号機における一次冷却水漏れ事故に関する申し入れ

後志管内泊村の北海道電力の泊原子力発電所2号機の原子炉格納器内の再生熱交換器室において放射能を含んだ1次冷却水が漏れる事故が発生した。

この事故に関して、北電がこれまでにを行った報告を整理すると、6日午後10時頃に泊原発2号機の原子炉格納器の底部にあるタンクで水位の上昇があり、翌日の午前11時に一次冷却水漏れと判断した。その後、調査を行った結果、その冷却水は原子炉容器内の再生熱交換器室において1次冷却水の漏洩であることを確認した。(7日、午後13時50分) そのため、原子炉から1次冷却水を抽出する系統を別の系統に切り替えた。一次冷却水の漏えい率が運転上の制限値を系統切り替え前も十分下回っており、また、系統切り替え後は漏えい率が低下していることから、漏えいは停止したと推測した。

その後の続報では、泊発電所2号機は運転状態を示す各種パラメーターに異常はなく、運転状態は安定している。9月7日21時頃、再生熱交換器出口管台と配管との溶接部から僅かな蒸気が漏れいしていることを確認し、9月8日8時50分頃から非破壊検査(液体浸透深傷検査:PT)を開始した。その後、超音波探傷検査(UT)を実施し、漏えい箇所の特定を行うというのが現時点での情報で

ある。

連合北海道はこれまで、原子力発電に関わる過去の様々なトラブルを踏まえ、原子力発電の安全確保と情報公開に万全を期すことを貴社に求めてきたところであるが、原子力発電所泊1号機（89年6月営業運転開始）同2号機（91年4月営業運転開始）を含めて初めて、今回、一次冷却水漏れ事故が発生した。については、原子力発電の安全確保と再発防止等に向けて以下の通り申し入れる。

記

- (1) 泊原子力発電所における今次の一次冷却水漏れ事故により、原子力発電の安全性に対する不安や重大事故に繋がるのではないかとの懸念がひろがっている。については、事故原因の徹底究明と再発防止、安全確保対策に万全の措置を講ずること。
- (2) 事故に際しては、事故の程度によらずあらゆる事故について、迅速に道や地元市町村へ連絡するなど情報伝達のあり方を改善すること。
- (3) 事故原因には積極的な情報開示を行い、地元や道民の信頼回復につとめること。

以上

北海道電力(株)回答要旨(濱田賢一 北電常務取締役)

今回の事故で道民の皆さんにご心配をかけることとなり申し訳ない。現在、事故原因を究明中であり、原因が明らかになり次第、再発防止に向けた具体的な対策を行う。そして、そのことを、道民の皆さんにもきちんと説明したい。これまで、安全確保に努めてきたが、信頼回復につとめ、一日も早く信頼をリカバリーしたい。事故に関わる情報伝達の改善について、申し入れの趣旨は重要だと受け止めており対応を検討させていただく。

北海道回答要旨(山口副知事)

今回の事故は原子炉の中で一次冷却水が漏れた、漏れた冷却水の量も少なく軽微だとは云え重大事故に繋がるのではないかとの懸念は当然だ。道としても一定の段階で、再発防止や今後の対応を北電に求めたい。

情報伝達の問題では、軽微な事故でも発表すべきだ。一次冷却水が漏れている場所が特定された段階、それが、止まった段階など、各段階で情報を出すべきだ。そうでなければ、原子力発電に詳しくない一般の市民は、不安や何か隠してるのではないかといった気持ちになる。そうした前提で、道、地元四町村、北電で協議をしたいと考えている。知らせることが大事だ。道の具体的な今後の対応にあたり、今回の要請を盛り込みたい。

以上